1Ja－2　　ファッション・プレートの研究（２）　－薔薇－

○浅野正子

目的　ファッション・プレートとは，18世紀末から20世紀初頭の定期刊行物におりこまれていた手彩色版画のことで，これからくるであろう流行の情報源であった。プレートは衣服を中心につくられたが，それを引き立てるためのものも常に描写されていた。これら衣服の周辺に着目することは，当時の生活や文化を知る手がかりとして重要である。

本研究では，プレートに多数描写されてきた薔薇の図像をとおして，その時代の生活スタイルを考察してゆくことを目的とする。

方法　ファッション・プレートを中心に，描写されている花の形態,色彩などを観察し，文献調査と合わせて解析してゆく。

結果　薔薇は西欧文明の代表的な花であるがゆえにその解釈は多様的であり，ファッション·プレートにおいては，ドレス，帽子，髪などの装飾として登場してくる。19世紀までの描写は，既存の絵画に共通性がみられる。20世紀初頭には改良新種がビジュアルに表現された一方，アール·デコの香り高い新たな描写スタイルもあらわれ，テキスタイル等へ応用されていった。

また，薔薇の魅力である芳香を感じさせる図像表現は，プレートにテイストを加えただけではなく，香りへの関心の高まりや香料需要の拡大をも暗示していた。